

市民公開講座

2017.
7/23日

(会場) 立命館大学 朱雀キャンパス
大講義室

(時間) 13:00～15:50 (開場:12:30)

参加費
無料

事前申込
不要



社会が 健康を決める?



健康は誰にとっても大きな関心事です。健康を単に病気という視点からではなく、生活習慣や生活環境、「社会」という大きな視点から見たとき、どんな姿が浮かび上がるのでしょうか。自ら患者の立場になった、わらじ医者早川一光氏を招き、公衆衛生、社会疫学、社会学といったいろいろな立場から健康について考えていきます。



早川 一光



上島 弘嗣

プログラム

地域健康社会学研究センター紹介と研究内容

早川 岳人 (地域健康社会学研究センター長)

講演
1

「健康に影響を与える社会的要因の 時代的变化」

上島 弘嗣 (滋賀医科大学名誉教授)

講演
2

「自分のからだは自分でまもる」

早川 一光 (医師)

パネルディスカッション

「健康の社会的決定要因 —学際的研究の展望—」

進行 早川 岳人

(ビデオメッセージ) 中村 正 (立命館大学教授)

パネリスト 上島 弘嗣 (滋賀医科大学名誉教授)

早川 一光 (医師)

松田 亮三 (立命館大学教授)

サトウタツヤ (立命館大学教授)



社会が健康を定める?

プログラムスケジュール

13:00~
13:15

地域健康社会学研究センター紹介と 研究内容

早川 岳人(地域健康社会学研究センター長)

13:15~
14:10

講演
1

「健康に影響を与える 社会的要因の時代的变化」

上島 弘嗣(滋賀医科大学名誉教授)

14:10~
14:45

講演
2

「自分のからだは自分でまもる」

早川 一光(医師)

休憩

15:00~
15:50

パネルディスカッション

「健康の社会的決定要因 —学際的研究の展望—」

進行

早川 岳人

パネリスト

上島 弘嗣(滋賀医科大学名誉教授)

早川 一光(医師)

松田 亮三(立命館大学教授)

サトウタツヤ(立命館大学教授)

ビデオメッセージ

中村 正(立命館大学教授)

登壇者紹介

上島 弘嗣(うえしま・ひろつぐ)

金沢大学医学部卒業、大阪府立成人病センター、国立循環器病センター集団検診部医長を経て滋賀医科大学教授、名誉教授。現在は滋賀医科大学アジア疫学研究センター特任教授。循環器疾患の疫学、生活習慣病の予防等が専門。国内外の疫学研究に従事する。



早川 一光(はやかわ・かずてる)

京都府立医科大学卒業。京都西陣で白峯診療所、のちの堀川病院で住民参加の地域医療を実践。その後、京都府美山町で公設民営の診療所に携わる。この間、総合人間研究所、わらじ医者よろず診療所を立ち上げ、患者・家族や地域に耳を傾け、自らも患者になりながら「生活医療」について問いかけている。



中村 正(なかむら・ただし)

立命館大学大学院社会学研究科 博士課程修了。専門は社会病理学、臨床社会学。暴力をはじめとした逸脱行動に関心を持っている。健康社会学の見地から脱暴力の臨床と理論の研究を行っている。現 立命館大学産業社会学部教授。



松田 亮三(まつだ・りょうぞう)

京都大学医学部卒業、博士(医学)。臨床を経て社会科学に転じる。医療・介護と社会保障に関わり、特に国際比較の中で日本の制度の特徴を考える研究を進めている。最近のテーマは、健康格差、公私連携、エンド・オブ・ライフ・ケアなど。現 立命館大学産業社会学部教授。



サトウタツヤ

東京都立大学大学院卒業。博士(文学 東北大学)。文化心理学、質的心理学、社会心理学が専門。人間は単なるヒトではなく、社会を作り社会に影響される存在であると唱えている。現 立命館大学総合心理学部教授。



早川 岳人(はやかわ・たけひと)

滋賀医科大学大学院卒業。衛生学・公衆衛生学を専門にし、健康格差、社会格差について、社会疫学、医療社会学の視点も含みながら領域を超えた研究を行っている。現 立命館大学衣笠総合研究機構教授。



センター開設にあたって

健康課題は、単に個人の生活習慣の改善だけでは予防・対処はできません。個人それぞれが属している地域社会の健康問題の改善も行っていくことが重要です。このセンターでは、社会疫学や衛生・公衆衛生学の視点からの分析や、健康問題を抱えている方からの話をもとに、健康について領域を超えて考えていきます。



- JR・京都市営地下鉄「二条駅」下車、JR東口から徒歩約2分
 - 阪急「大宮駅」下車、徒歩約10分
 - 京都市バス・JRバス「千本三条・朱雀立命館前」下車、徒歩1分
- ※ご来場には公共交通機関をご利用ください

